

第1回日インドネシア物流ワーキング・グループ
宿利会長開会挨拶

Selamat Siang.

(こんにちは。)

Sahabat saya, Bapak Odo yang sangat saya hormati,

(私の親愛なる同志、深く尊敬するオド・インフラ地域開発調整府次官。)

Saya merasa sangat terhormat dapat kembali lagi ke Jakarta hari ini.

(本日、再びここジャカルタを訪れることができ、大変光栄に存じます。)

皆様、こんにちは。運輸総合研究所（JTTRI）会長の宿利でございます。

まず、本日の第1回目の日本とインドネシアの物流ワーキング・グループの開会に先立ちまして、一言お見舞いを申し上げます。去る4月27日、ジャカルタ近郊の東ブカシ駅におきまして、痛ましい鉄道の列車追突事故が発生したとの報に接し、大変心を痛めております。お亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様、そして被害に遭われた全ての方々に心よりお見舞いを申し上げます。

さて、本日は日本とインドネシア共和国のインフラ地域開発調整府との共催により、第1回日本・インドネシア物流ワーキング・グループを開催することができ、オド・インフラ地域開発調整府次官をはじめインドネシアと日本の大変多くの皆様にこの会場で、またオンラインでご参加いただいておりますことを心より感謝申し上げます。

このWGは、昨年2025年9月にジャカルタで開催した「物流シ

ンポジウム」での議論が結実したものです。

物流シンポジウムでご来賓としてご挨拶いただいたアグス・ユドヨノ・インフラ地域開発調整大臣から、物流効率化に向けた「実務レベルでの継続的な知見の共有と議論の枠組み」について力強いご提案をいただきました。

この提案を受け、本日こうしてその具体的なアクションの第一歩として本 WG の開催に踏み出せたことは、日本とインドネシア両国の協力関係における大きな進展であると確信しております。本 WG の実現にご尽力いただいたインフラ地域開発調整府のオド次官、メイナルディ・ファウジー副補佐官をはじめ、関係各位に深く感謝申し上げます。

昨年 9 月のシンポジウムにおいては、物流改善に向けて取り組むべき主要な課題として、①マルチモーダル輸送の拡大、②デジタル化の推進、③物流ハブの能力向上、④マネジメント及び人材育成、が挙げられました。

本 WG は、これらの重要課題に対する効果的かつ具体的な解決策を議論し、政策提言へとつなげていくことを目的としています。

第 1 回となる本日は、これら 4 つの論点の中から、まず「マルチモーダル輸送の拡大」をテーマとして取り上げます。

日本側からは有識者として、日本通運株式会社の安藤恒夫常務執行役員・国内定期線部・港湾運送部担当兼フォワーディングビジネスユニット長にお越しいただいており、後ほど専門的な見地からご発表をいただきます。

また本日、日本側からは国土交通省の牧野国際物流室長にオンラインでご参加いただいているほか、この会場には在インドネシア日本大使館及び JICA の皆様並びに多くの日系物流企業の皆様、そして物流をご専門とする大学の先生方にお集まりいただ

きました。

インドネシア側からは、インフラ地域開発調整府をはじめ、経済調整府、運輸省など、多くの関係省庁の幹部の皆様にご出席いただいております。

厚く御礼申し上げます。

本日は、日本とインドネシア両国の産官学の専門家が一堂に会する貴重な機会です。ぜひ皆様には、物流の現場の実態に即した自由闊達な議論を行っていただきたいと考えております。

また、今後本 WG は、4 ヶ月に 1 回程度の頻度で継続的に議論を重ねていくつもりです。そして、先ほど申しあげました各テーマについての検討を深め、最終的には具体的な政策提言に繋げていきたいと考えております。

さらに、この WG の成果を日本とインドネシアの中に留めるのではなく、ASEAN 事務局とも連携しながら、将来的に ASEAN 全体の物流改善に向けた議論へと繋げていくことを目指したいと考えております。こうした展開が、日本と ASEAN の間の更なる物流の拡大を力強く後押しし、また、日本・インドネシア双方にとって実りある結果をもたらすものと私は確信しております。

最後になりますが、本 WG が日本とインドネシアの強固なパートナーシップのもと、両国の、そして ASEAN 地域の物流の発展に向けた大きな一歩となりますよう、皆様のご協力をお願い申し上げます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

Terima kasih banyak.